

まぼろしの都 恭仁宮



京都府木津川市立恭仁小学校6年生
総合的な学習の時間

～みかのはら歴史再発見～



1.はじめに

恭仁宮跡の学習やPR活動を続けてきました。



1.はじめに

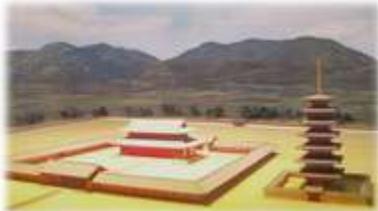
私たち木津川市立恭仁小学校6年生は、総合的な学習の時間で自分たちのふるさと・京都府木津川市瓶原(みかのほら)にある恭仁宮跡について、日本中・世界中の人に広める活動をしています。主に、恭仁宮跡やくにのみや学習館、山城郷土資料館、奈良国立博物館、平城宮跡歴史公園などで、恭仁宮跡の学習やPR活動を続けてきました。

恭仁宮は、日本の都、今の東京のような場所でした。現在も、恭仁宮跡をたくさんの人に知ってもらうためにはどうすれば良いのかを考え、活動を続けています。

私たちの恭仁宮についての紹介をぜひ見てください!

2. まぼろしの都

恭仁宮跡(くにきゅうせき)



恭仁宮が「まぼろしの都」とよばれている！！

その理由は…

都だったのは約3年間でした。



分からないことがいっぱい！



教科書にもくわしくのっていない！！



2. まぼろしの都

みなさんは、恭仁宮が「まぼろしの都(みやこ)」と呼ばれていることを知ってますか。恭仁宮は、奈良時代に聖武天皇がつくった都です。

恭仁宮が都だったのは、約3年間でした。恭仁宮は、聖武天皇が都をうつしてから完成されないまま、別のところに都がうつされました。今でも分からないことがたくさんあります。教科書にも、小さい文字でしか書かれていません。

たったの3年間だけの「まぼろしの都」、それが恭仁宮なのです。

すべてぼくの
せいだ～

3. 奈良時代のようす



しんでしまう
びょう気



聖武天皇
しょうむてんのう

ひろつぐの
らん

なんでやねん

なに



大きな地しん

よし!!
みかのはらへ
ひっこそう



藤原 広嗣
ふじわらのひろつぐ



聖武天皇
しょうむてんのう



食べものがとれない



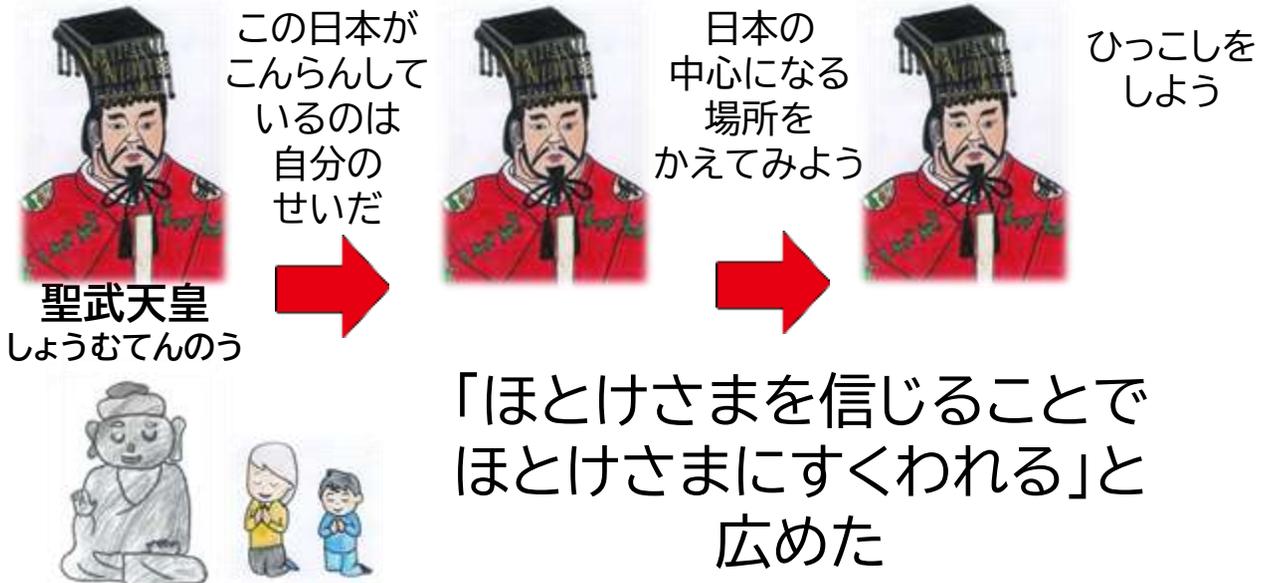
3. 奈良時代のようす

奈良時代には大きな地震で多くの人々が亡くなり、その後には新型コロナウイルスと似たような天然痘(てんねんとう)という死んでしまう病気がとても流行り、多くの人々が亡くなるなど、世の中は平和ではありませんでした。

聖武天皇は、大きな地震や天然痘は、すべて自分が悪いと思いとて落ち込んでいました。それがたくさん引越した理由です。その都の中に恭仁宮を選んだのです。

そして、大きな地震・天然痘のほかにも、雨が降らず食べ物とれないことや、九州に住んでいる聖武天皇の仲間だった藤原広嗣が起こした「藤原広嗣の乱」などもありました。

4. 聖武天皇



4. 聖武天皇

聖武天皇が天皇だった奈良時代は、戦いやはやり病、雨が降らない、食べ物がとれない、大きな地震などが起こりました。聖武天皇は、そのすべてが聖武天皇のせいだと思っていました。

聖武天皇は、どうにかして国を平和にしようと仏教の教えを広め、仏さまを信じることで、大変な毎日でもみんなが安心してらせるようにと考えました。

また、聖武天皇が住んでいる場所が悪いから、世の中が悪くなるという考えから、何度も都を引越しました。そして2度目の引越しで恭仁宮にやってきました。

どうして？

わざわざ？

5. 都をみかのはらに引越した理由

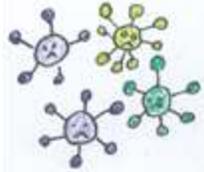
なんで
みかのはらなん？

このままじゃ
危険！

はやりのびよう気！

ひっこししよう！

安全 平和



【聖武天皇】



みかのはら

5. 都をみかのはらに引越した理由

みなさんは、聖武天皇がなぜみかのはらに引越したか知っていますか。

聖武天皇が次の都をどこにしようか困っていた時に、仲間の橘諸兄(たちばなのもろえ)が自分もっている土地を「都にどうですか？」とすすめてくれました。

それがみかのはら、今の恭仁宮跡だったのです。

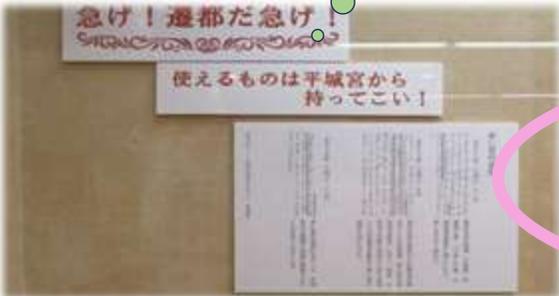
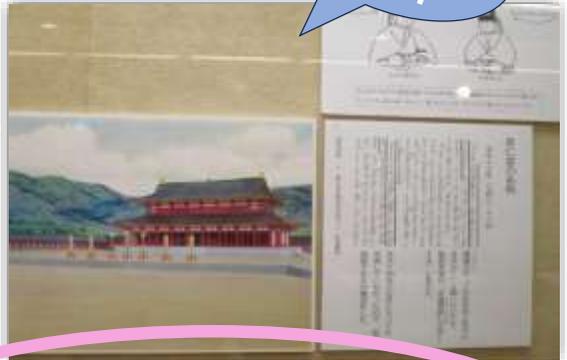
聖武天皇は、すすめられたみかのはらが、病気が流行っていない安全なところだと知り、みかのはらに都を引越しました。

6. 恭仁宮について

どんな場所？



つくっていた
きかんは
約3年!!



急げ！遷都だ急げ！

使えるものは平城宮から
持ってこい！

恭仁宮跡(くにきゅうせき)は
大切な
れきしがある場所

6. 恭仁宮について

恭仁宮は、聖武天皇が思いを込めてつくった都です。

恭仁宮をつくる時、外側から見えにくい部品(廊下の柱など)は平城宮から持ってきました。そのためつくっていた期間は約3年で、とても短い間でした。そのため恭仁宮は幻の都と呼ばれているのです。

平城宮から部品を持ってきたのは、とても興味深いです。よほど急いでいたのでしょう。現在、恭仁宮跡は史跡として、とても大切な歴史がある場所になっています。

7. 大極殿の復元

恭仁宮があったから
復元(ふくげん)できた！

大極殿(だいごくでん)を
もってきた



平城宮
(へいじょうきゅう)

平城宮から恭仁宮に
都をたてものごとうつす

むかし

いま



恭仁宮をもとにして
平城宮を復元(ふくげん)

恭仁宮
(くにきゅう)

7. 大極殿の復元

大極殿がどんなところなのか知っていますか。大極殿とは、昔の日本の大切な話し合いなどを行った重要な場所なのです。

そして平城宮跡に今建てられている大極殿は、恭仁小学校のうら側に建っていた恭仁宮の大極殿の大きさをもとに建てられているのです。

平城宮から恭仁宮にやってきた聖武天皇は、平城宮の大極殿をバラバラにして、恭仁宮で組み建てて、恭仁宮の大極殿にしました。つまり平城宮と恭仁宮の大極殿は、同じ作りなのです。

8. 七重の塔の石だん

もとは、
恭仁宮（くにきゅう）や
国分寺（こくぶんじ）が
あったよ。



塔(とう)のあと



この部分です。

8. 七重の塔の石だん

恭仁宮の大極殿は、都ではなくなってから山城国分寺(山背国分寺)にあげることになりました。国分寺というのは、聖武天皇が仏教で国をおさめようとしたときに、全国のいろいろなところに建てたお寺です。

国分寺には、七重の塔が建っていました。その七重の塔の礎石が、恭仁宮跡にまだそのまま残っています。七重の塔の礎石は、自由にふれることができます。さらに、大極殿が建っていた土台の部分も、昔の人達を作ったものがそのまま残されています。恭仁宮跡は、目で見て触ることができる、貴重な遺跡なのです。

9. 恭仁宮跡オススメ情報

山城郷土資料館
(恭仁宮跡がくわしく分かる)

や
くにのみや学習館
(トイレも有ります)

が
すぐ近くにあります。

広くて、自由に入れます。
ピクニックやバドミントン、
おいかけっこなど、
親子で楽しめます。

山城郷土資料館



くにのみや学習館



恭仁宮跡

9. 恭仁宮跡オススメ情報

恭仁宮跡は、広くて自由に入れます。ピクニックやバドミントン、おいかけっこなど、親子で楽しめます。恭仁宮跡の向かいには、永島食料品店という店があり、おかしやアイス、飲み物を買うことができます。

また恭仁宮跡では季節ごとに、桜、コスモス、アジサイ、彼岸花などの花が咲き、小川も流れています。秋にはドングリや柿が実をつけます。

また山城郷土資料館(やましろきょうどしりょうかん)、くにのみや学習館という恭仁宮跡のことがさらにわかる場所も近くにあります。くにのみや学習館にはトイレもあるのでとても便利です。